

うみがたりでアートが広がる

ART OF REBORN

【令和3年8月1日(日)～令和3年9月26日(日)】

上越市立水族博物館「うみがたり」(新潟県上越市五智2-15-15)は、令和3年8月1日(日)～令和3年9月26日(日)の間、直江津地区で実施する現代アートイベント「なおえつうみまちアート」に連動した「うみがたり」独自のアートイベント「ART OF REBORN」を実施します。

「ART OF REBORN」では、海の生きものをテーマにした作品として、直江津の海岸の砂を使用したサンドアートや、廃材を利用した廃材アートを展示し、また、皆さまから募集したアート作品の展示など、アートと「うみがたり」が合わさった新たな体験をお届けします。

直江津の海砂に命を吹き込む

◆サンドアート◆

新潟県の海岸の大部分を占める砂。直江津の海岸で採取した砂を使用して海の生きものを造形したサンドアートを展示します。「うみがたり」からインスピレーションを受けた作品の創作を令和3年7月26日(月)から「うみがたり」の前でスタートします。創作するのは世界を舞台に第一線で活躍する彫刻家の保坂俊彦氏です。



【アーティスト】

保坂俊彦 彫刻家 宮城県東松島市地域おこし協力隊所属。

1974年 秋田県生まれ

1997年 より砂像の制作を始める。

1998年 東京藝術大学 美術学部 彫刻科 卒業。

ドイツで行われたサンドアート世界大会で3位。中国の世界大会で準優勝。2017年の台湾で行われた世界大会で優勝など数々の受賞歴がある。進撃の巨人の砂像や日清カップヌードルの砂像など多数制作。

《保坂氏 作品例》



廃材に再び命を吹き込む

◆廃材アート◆

生活から出た廃材を海の生きものに生まれ変わった作品を館内に展示します。こちらの作品は新潟県村上市ご出身の加治聖哉氏による作品で、今年県内の別イベントでも作品を展示し話題になりました。中でも水生生物を多く制作しており、実際に生きものを飼育する水族館での展示をオファーし実施に至りました。



【アーティスト】

加治聖哉 新潟県村上市生まれ。長岡造形大学卒。25歳。
彫金を専攻し、首都圏のアート制作会社に就職。その後2019年に地域おこし協力隊員として、学生時代に慣れ親しんだ長岡市栃尾地域へ移住した。生きものをモチーフにした作品が多く、実物大での制作を心がけている。巨大な動物では骨格の構造を再現するなど生き生きと躍動感ある作品が特徴。

《加治氏 作品例》



■うみがたりアートイベント「ART OF REBORN」プレイベント■

8月1日のイベント初日を前にアーティストも参加するプレイベントを実施します。
サンドアート、廃材アート共にプレイベントをもって完成いたします。

日	時	令和3年7月31日(土)
		14:00~
場	所	エントランス前